

## 平成28年度各部の重点取組の取組結果

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 部(局)名  | 学校教育部           |
| 部(局)長名 | 羽間 功            |
| 理事名    | 服部 高佳 (学校教育部担当) |

### 【基本姿勢】

「わがまちすいたの教育ビジョン」に示す「総合的人間力の育成」を目指し、中学校ブロックごとに学びや育ちの連続性を踏まえた小中一貫教育を一層推進するとともに、学校・園における子どもたちの豊かな学びと心を育む学校づくりを進め、質の高い公教育の創造を図り快適な教育環境づくりを進めます。

とりわけ、子どもたちが新しい時代を生き抜き、グローバル化社会の中で自らの能力や個性を最大限に発揮できるよう授業の充実を図るとともに、教職員の力を十分に引き出し「学校力」が高まるよう、学校を支援します。

### 【達成度について】

A：達成（設定した目標を達成することができた。）

B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）

C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成にはいたらなかった。）

### 【重点課題】

|   | 重点課題              | 平成28年度<br>達成状況 |
|---|-------------------|----------------|
| 1 | 小中一貫教育の推進         | A              |
| 2 | 確かな学力の育成          | B              |
| 3 | 今日的課題に対応した教育の推進   | A              |
| 4 | 生徒指導の充実           | A              |
| 5 | 特別支援教育の充実         | B              |
| 6 | 安心安全で豊かな学校教育環境の整備 | A              |
| 7 | 学校・園運営体制の確立       | A              |
| 8 | 教育資料の提供と教職員研修の充実  | B              |

|       |       |
|-------|-------|
| 部(局)名 | 学校教育部 |
|-------|-------|

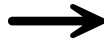
|        |           |
|--------|-----------|
| 重点課題 1 | 小中一貫教育の推進 |
|--------|-----------|

|        |
|--------|
| 全体の達成度 |
| A      |
| 達成     |

|                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 目指すべき方向<br>(中期的な目標) | 小中一貫教育を通じて、確かな学力の定着を図ります。 |
|---------------------|---------------------------|

|                                       |
|---------------------------------------|
| 活動目標                                  |
| 小中一貫教育実施プランⅡに基づき、9年間の教育課程の編成等充実を図ります。 |

|   |
|---|
| 具体的な取組実績  |
| 全ての中学校ブロックでめざす子ども像を掲げるとともに、教員の指導観の共有を図るべく、小中合同研修会を開催しました。また、小中一貫教育代表者会において、各中学校ブロックにおける取組の情報共有及び発信に努めました。 |



|                                 |
|---------------------------------|
| 達成目標                            |
| 全ての中学校ブロックで幼小中一貫教育カリキュラムを作成します。 |

|  |     |
|--|-----|
| 達成状況   | 達成度 |
| 「吹田市小中一貫教育実施プランⅡ」の重点項目ごとにスケジュールを示し、中学校ブロックごとに取組の焦点化を図って取り組みました。重点項目のうち、特に小・中学校9年間のカリキュラム編成については、7中学校ブロックから10中学校ブロックに大幅に増加しました。 | A   |
|  | 達成  |



|  |
|--|
| 総合評価・総括  |
| 「小中一貫教育実施プランⅡ」に基づき、全ての中学校ブロックで合同研修を行うことで、授業研究を進め、教職員の指導力向上に努めるとともに、就学前教育との接続を意識したカリキュラム作成に向けて方向性を示すことができました。 |

|       |       |
|-------|-------|
| 部(局)名 | 学校教育部 |
|-------|-------|

|        |          |
|--------|----------|
| 重点課題 2 | 確かな学力の育成 |
|--------|----------|

|        |
|--------|
| 全体の達成度 |
| B      |
| 一部達成   |

|                     |                            |
|---------------------|----------------------------|
| 目指すべき方向<br>(中期的な目標) | 児童・生徒の学習意欲の向上や自学自習力を育成します。 |
|---------------------|----------------------------|

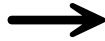
| 活動目標                                 |
|--------------------------------------|
| 「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童・生徒の割合を増やします。 |
| 情報教育機器の活用を進めます。                      |
| 学校教育情報通信ネットワークの再構築計画を進めます。           |

| 具体的な取組実績  |
|---|
| 放課後学習支援者は45名で、2月末までに放課後学習を481回実施しました。   |
| 市内小中学校の教員で構成するICT活用研究グループが、研究会を13回開催し、情報教育機器の活用について調査研究しました。内容は1月実施の吹田市教育研究報告会等で発信し、小・中学校において情報教育機器を活用した公開授業を2回行いました。 |
| コンサルティング業者との会議、打合せ等を71回開催し、RFI実施時やプロポーザル時の助言、情報提供を受けました。  |

| 達成目標                             |
|----------------------------------|
| 全ての学校で学習意欲、家庭学習に関する項目で全国値を上回ります。 |
| 情報教育機器を活用した授業を進めます。              |

| 達成状況   | 達成度           |
|--|---------------|
| 全ての学校で「自分で計画を立てて勉強する」項目で全国値/吹田市(平成28年度小62.2%/55.8%、中48.4%/54.6%)を上回るよう、放課後学習を活用していきます。 | B<br><br>一部達成 |
| 既存の情報教育機器を、日々の授業にて活用しました。特にタブレットについては、市内全小中学校で教員や児童・生徒が授業で活用しました。                      | A<br><br>達成   |

平成29年度（2017年度）のネットワーク再構築に向けて最適なシステムを計画・策定します。



コンサルティング業者から最適なシステムの提案を受け、学校教育情報通信ネットワークに係る適切な仕様書を作成しました。

A

達成

#### 総合評価・総括

放課後学習では、外部支援者の活用や各校における放課後を活用した取組の充実により、自学自習力の向上へとつながりました。引き続き「学力の向上」に関する取組を充実させていきます。

情報教育機器については、教員が普段から活用できる事例等を発信することができました。今後は平成30年1月の本稼動に向けたシステムの構築を進めていきます。

|       |       |
|-------|-------|
| 部(局)名 | 学校教育部 |
|-------|-------|

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 重点課題 3 | 今日的課題に対応した教育の推進 |
|--------|-----------------|

|        |
|--------|
| 全体の達成度 |
| A      |
| 達成     |

|                     |                                       |
|---------------------|---------------------------------------|
| 目指すべき方向<br>(中期的な目標) | グローバル化が進む社会の中で活躍できる国際性豊かな子どもの育成を図ります。 |
|---------------------|---------------------------------------|

| 活動目標                                   |
|--|
| 9年間を通して充実した英語教育を提供します。                 |
| 英語でのコミュニケーションに対する意欲の向上を図ります。           |
| 小学校6年生に小学校外国語活動の中で学んだ英語が活用できた実感を持たせます。 |
| 読書活動支援者を配置し、子どもたちの豊かで幅広い読書活動の充実を図ります。  |

| 具体的な取組実績   |
|--|
| 小学校25校が文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、1年生から9年間を通して編成したカリキュラムをもとに英語教育を行いました。小・中学校ともに英語指導助手を派遣し、ネイティブの発音に慣れ親しませることで、児童・生徒の英語力の向上を図りました。  |
| 小学校3・4年生の児童を対象に「すいたえいごkids2016」を実施し、英語でのコミュニケーションに対する意欲の向上を図りました。  |
| 小学校6年生の全児童対象にオオサカイングリッシュビレッジを活用した「すいたえいごWeek」を実施し、英語でのコミュニケーション体験を行う中で、小学校外国語活動で学んだことを児童に自己評価させることで達成感を持たせ、英語学習への意欲向上を図りました。 |
| 36小学校に1校1名、18中学校に2校1名の読書活動支援員を配置し、読書活動の充実を図りました。   |

| 達成目標   |
|--|
| 英検3級程度の英語力を有する中学校3年生の割合を増やします。                     |
| すいたえいごkidsの取組を通して英語をツールとしてコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めます。 |

| 達成状況   | 達成度     |
|--|---------|
| 英検3級程度の英語力を有する中学校3年生の割合は、37%（昨年度30%）に増加しました。                       | A<br>達成 |
| 事後アンケート結果によると、「英語を話せるようになりたい」という質問に肯定的に回答した児童が、95%（昨年度93%）に増加しました。 | A<br>達成 |

|  |          |   |                 |
|--|----------|---|-----------------|
| <p>6年生全児童のうち目標を達成したと評価した児童の割合を増やします。</p> | <p>→</p> | <p>事後アンケート結果によると、「学校で学んだ英語を使うことができたか」という質問に肯定的に回答した児童の割合は75%でした。</p>        | <p>A<br/>達成</p> |
| <p>学校図書館での子ども一人あたりの図書貸出冊数を増やします。</p>     | <p>→</p> | <p>貸出実績は607,132冊と小・中学校合わせて14,499冊の増加となりました。子ども一人あたりは20.5冊となり0.4冊増加しました。</p> | <p>A<br/>達成</p> |

総合評価・総括

小学校1年生からの英語活動の実施校を拡充するとともに、「すいたえいごkids」やオオサカイングリッシュビレッジ「すいたえいごWeek」などの英語コミュニケーション体験事業を行うことで、コミュニケーション力の育成を主眼とする本市の英語教育の充実を図ることができました。

|       |       |
|-------|-------|
| 部(局)名 | 学校教育部 |
|-------|-------|

|        |         |
|--------|---------|
| 重点課題 4 | 生徒指導の充実 |
|--------|---------|

|        |
|--------|
| 全体の達成度 |
| A      |
| 達成     |

|                     |                               |
|---------------------|-------------------------------|
| 目指すべき方向<br>(中期的な目標) | いじめ・不登校、暴力行為等の未然防止や早期解決を図ります。 |
|---------------------|-------------------------------|

|                    |
|--------------------|
| 活動目標               |
| 全ての児童・生徒の課題を解決します。 |

|  |
|--|
| 具体的な取組実績   |
| 生徒指導主事会・小学校生徒指導主催者を6回開催し、情報共有及び事例検討を実施しました。<br>学警連絡会を5回開催し、警察との連携を図りました。 |

|                              |
|------------------------------|
| 達成目標                         |
| 課題が解決もしくは好転した児童・生徒の割合を増やします。 |

|                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| 達成状況                              | 達成度 |
| 小・中学校の暴力行為が、401件(昨年度462件)に減少しました。 | A   |
|                                   | 達成  |

|  |
|--|
| 総合評価・総括  |
| 小・中学校において暴力行為が昨年度より減少しました。吹田市いじめ防止基本方針を策定するとともに、全ての小・中学校のいじめアンケートに「吹田市共通項目」を盛り込み、いじめについても積極的に認知し、早期対応できる校内体制の構築を進めました。 |

|       |       |
|-------|-------|
| 部(局)名 | 学校教育部 |
|-------|-------|

|        |           |
|--------|-----------|
| 重点課題 5 | 特別支援教育の充実 |
|--------|-----------|

|        |
|--------|
| 全体の達成度 |
| B      |
| 一部達成   |

|                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| 目指すべき方向<br>(中期的な目標) | 児童・生徒一人ひとりに応じた適切な特別支援教育を推進します。 |
|---------------------|--------------------------------|

| 活動目標                                  |
|---------------------------------------|
| 医療的ケアを要する全ての児童・生徒に看護師資格を有する介助員を配置します。 |
| 安心・安全に学校生活が送れるよう、在籍する学校に介助員を配置します。    |
| 支援学級在籍児童・生徒等を支援します。                   |
| 特別な支援が必要な子どもたちへの支援・指導を充実します。          |

| 具体的な取組実績  |
|---|
| 医療的ケアを要する児童・生徒13名全てに対し、看護師資格を有する介助員を配置しました。   |
| 非常勤介助員48名、臨時雇用員としての介助員42名を、特に支援を要する児童生徒が在籍する学校に配置しました。  |
| 肢体不自由児学級へ理学療法士を派遣したり、送迎のワゴン車を配車しました。また支援学級担当者へ支援教育講習を複数回行いました。  |
| 全ての学校園に特別支援教育コーディネーター及び校内委員会を置くとともに、研修の充実にも努め、校内体制の活性化を図りました。また、全ての幼稚園・小学校と中学校に延べ299回の巡回相談を行うとともに、今年度から小学校1年生全員を対象とした巡回発達相談を実施しました。 |

| 達成目標                                  |
|---------------------------------------|
| 医療的ケアを要する児童・生徒に対し、看護師資格を有する介助員を配置します。 |
| 安心・安全に学校生活が送れるよう、在籍する学校に介助員を配置します。    |

| 達成状況   | 達成度       |
|--|-----------|
| 医療的ケアを要する児童・生徒13名全てに対し、看護師資格を有する介助員を延べ23名配置しました。       | A<br>達成   |
| 非常勤介助員48名、臨時雇用員としての介助員42名を、特に支援を要する児童生徒が在籍する学校に配置しました。 | B<br>一部達成 |



|  |   |   |                 |
|--|---|---|-----------------|
| <p>肢体不自由児訓練、就学指導、また通学等様々な移動手段の確保等の充実を図ります。</p>                                       | → | <p>肢体不自由児学級へ理学療法士を年35回派遣しました。肢体不自由児の学校への送迎においてワゴン車を配車しました。また肢体不自由児が校外学習等へ行く際にもワゴン車やタクシー利用を手配しました。就学指導も年間を通じて行いました。</p>  | <p>A<br/>達成</p> |
| <p>特別支援教育コーディネーターを核とした特別支援教育の体制強化や、巡回相談の実施等により、発達等の課題に対する早期発見・早期対応及び支援の充実を目指します。</p> | → | <p>全ての幼稚園・小学校と中学校への巡回相談及び小学校1年生全員を対象とした巡回発達相談をとおして、発達課題の早期発見・早期支援ができるよう学校・園の支援に取り組みました。また、特別支援教育コーディネーター研修を14回実施し、校内研修で伝達講習を行い、特別支援教育の専門知識技能の習得と体制整備に努めました。</p> | <p>A<br/>達成</p> |

| 総合評価・総括  |  |
|--|--|
| <p>児童・生徒一人ひとりに応じた特別支援教育の観点で、人的配置や送迎補助等の物理面の配慮や、個別の支援計画・個別の指導計画に基づいたさらに適切な特別支援教育の向上に努めました。引き続き、よりきめ細かな特別支援教育を目指し、取り組みを進めていきます。</p> <p>また、全ての幼稚園・小学校と中学校に巡回相談を実施することにより、発達等の課題に対する早期発見・早期対応及び支援の充実にも努めました。来年度は小学校1年生全員を対象とした巡回発達相談の時期を1学期から実施できるよう努めていきます。</p> |  |

|       |       |
|-------|-------|
| 部(局)名 | 学校教育部 |
|-------|-------|

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 重点課題 6 | 安心安全で豊かな学校教育環境の整備 |
|--------|-------------------|

|        |
|--------|
| 全体の達成度 |
| A      |
| 達成     |

|                     |                                   |
|---------------------|-----------------------------------|
| 目指すべき方向<br>(中期的な目標) | 学校・園施設の環境整備を進めるとともに、安心安全の確保に努めます。 |
|---------------------|-----------------------------------|

| 活動目標   |
|--|
| 校具、教具等の整備や学校の環境美化、施設の維持管理に努めます。また、学校の環境整備業務の委託を進め、必要な公共サービスの質と量の確保に努めます。 |
| 不審者等から園児、児童を守る体制を整備します。  |

| 具体的な取組実績   |
|--|
| 老朽化が進行した小・中学校の保健室のエアコンの更新を実施しました。<br>アウトソーシング推進計画に基づき、樹木剪定、草刈りなど環境整備業務のアウトソーシングを進めました。   |
| 小学校・幼稚園のより徹底した防犯体制の確立と子どもたちの安全確保を目的に警備員等を配置しました。校門付近を常時監視することで、来校者の受付とチェックを行い、不審者の侵入防止・抑制を図るとともに、緊急時の迅速な連絡体制のとれる安全対策業務を実施しました。 |

| 達成目標  |
|---|
| 児童、生徒の心身の発達に応じた円滑な教育環境を整えます。また、小学校19校、中学校5校において、校務員の臨時雇用員を任用しながら、校務員業務の一部委託を進めます。 |
| 園児、児童の安全確保に努め、来訪者のチェックを行い不審者の侵入の抑制を図ります。  |

| 達成状況  | 達成度     |
|---|---------|
| 小学校11校、中学校5校で老朽化が進行した保健室のエアコンを更新しました。<br>校務員の臨時雇用員を任用しながら、樹木剪定、草刈りなど校務員業務の一部委託を進め、環境整備に努めました。                               | A<br>達成 |
| 小学校及び幼稚園（小学校併設を除く）は、原則授業時間中に警備員による立哨及び受付業務を実施しました。小学校併設幼稚園は、シルバー人材センターに委託し授業時間中受付員を配置しました。有人警備は、不審者侵入に対する抑止力が依然として高くなっています。 | A<br>達成 |

| 総合評価・総括  |
|--|
| <p>老朽化が進行し、耐用年数15年を超えている保健室のエアコンについて、小学校11校、中学校5校で更新し、学校環境の整備を進めました。</p> <p>アウトソーシング推進計画に基づき、樹木剪定、草刈りなど環境整備業務のアウトソーシングを進めました。</p> <p>安全対策業務は、PTA等の各種団体からの事業継続に対する要望も強く、引き続き、小学校・幼稚園の校門・園門に警備員等を配置し校門・園門付近を常時監視することで、不審者の侵入を防止し、子どもたちの学校・園内での安全確保のための事業を継続して行っています。</p> |

|       |       |
|-------|-------|
| 部(局)名 | 学校教育部 |
|-------|-------|

|        |             |
|--------|-------------|
| 重点課題 7 | 学校・園運営体制の確立 |
|--------|-------------|

|        |
|--------|
| 全体の達成度 |
| A      |
| 達成     |

|                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 目指すべき方向<br>(中期的な目標) | 安心・安全で豊かな学校・園の教育環境を整備します。 |
|---------------------|---------------------------|

| 活動目標                                 |
|--------------------------------------|
| 全ての小学校の第1学年児童<br>に対しスターターを配置しま<br>す。 |
| 小規模校に対し、教員を増員<br>します。                |

| 具体的な取組実績                       |
|--------------------------------|
| 市内36校全てに対して、スターターを配置しま<br>した。  |
| 小規模小学校2校に対して、臨時雇用員を配置し<br>ました。 |

| 達成目標   |
|--|
| 第1学年児童に対し、きめ細<br>かな指導を充実させ、スムー<br>ズな移行を図ります。 |
| 問題行動等への組織対応を強<br>化することにより、学校力の低<br>下を抑えます。   |

| 達成状況  | 達成度     |
|---|---------|
| スターターの配置により、きめ細かな<br>生活支援や学習支援が行われ、小学校生<br>活へのスムーズな移行を図ることができ<br>ました。また、虐待等の早期発見、防止<br>にも大いに効果がありました。 | A<br>達成 |
| 臨時雇用員を配置したことにより、生<br>徒指導担当が校内の生徒指導體制の中心<br>となり、組織対応を図れるようコーデ<br>ィネートし、問題行動等を減少させるこ<br>うことができました。      | A<br>達成 |

| 総合評価・総括  |
|--|
| <p>小学校スタートアップ事業により、スターターからの個別支援や声掛けが、児童の気づきややる気につながり、それぞれの1年生児童が安心して有意義な学校生活を送ることができました。</p> <p>小規模校支援事業により臨時雇用員を配置した学校では、小学校の生徒指導担当者が中学校の生徒指導会議に参加するなど、中学校の生徒指導主事と今まで以上に連携し、組織的な生徒指導體制を構築できました。また、児童への学校生活アンケートを実施、分析することにより児童理解を深め、問題行動の未然防止を図ることができました。</p> |

|       |       |
|-------|-------|
| 部(局)名 | 学校教育部 |
|-------|-------|

|        |                  |
|--------|------------------|
| 重点課題 8 | 教育資料の提供と教職員研修の充実 |
|--------|------------------|

|        |
|--------|
| 全体の達成度 |
| B      |
| 一部達成   |

|                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 目指すべき方向<br>(中期的な目標) | 信頼と責任のある学校・園づくりを進めます。 |
|---------------------|-----------------------|

| 活動目標                                    | 具体的な取組実績   |
|---|--|
| 教職員研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。               | 管理職・スクールリーダー研修としては、27講座1,161名が参加しました。また、教職員研修としては、キャリアステージに応じた研修(78講座1,821名)、教育課題別研修(15講座404名)教科・領域別研修(17講座577名)、専門職等研修(9講座229名)、特別支援教育研修(16講座913名)、情報教育研修(30講座370名)合計192講座5475名の教職員の参加がありました。 |
| 教職員の研修を支援する資料・情報の提供や教職員への指導・助言の充実を図ります。 | 教育研究大会では1,382名が参加しました。教育研究報告会では、237名の教職員が参加し、調査研究グループをはじめとする14団体の調査研究・実践等の成果を共有しました。中学校パッケージ研修支援では市内の3中学校を支援しました。  |

| 達成目標  | 達成状況  | 達成度       |
|---|---|-----------|
| 全ての教職員が教育センターでの教職研修講座を3.25回以上受講します。昨年度(3.22回) | 教職員研修講座を延べ5,475名の教職員が受講し、幼稚園、小・中学校合わせて1,824名(平成28年5月1日現在)の本市教職員において1人あたり3.00回の受講となりました。 | B<br>一部達成 |
| 研修参加者によるアンケート結果の満足度を52.5%以上にします。昨年度(50.4%)    | 研修参加者より回収したアンケートから、研修内容に対する満足度は53.9%でした。  | A<br>達成   |

| 総合評価・総括   |
|---|
| 教職員研修は、初任者研修、10年経験者研修等の法定研修、2～5年目の教員を対象としたステップアップ研修、ミドルリーダー育成を目的としたヤングリーダー研修等のキャリアステージに応じた研修と一般研修とを合わせて192講座に延べ5,475人が受講し、研修参加者の満足度は53.9%でした。次年度も、受講者アンケートを継続的に実施することでニーズを把握し、研修内容や形態の工夫、学校の取組や個人の実践につながるような研修の充実に努めます。 |